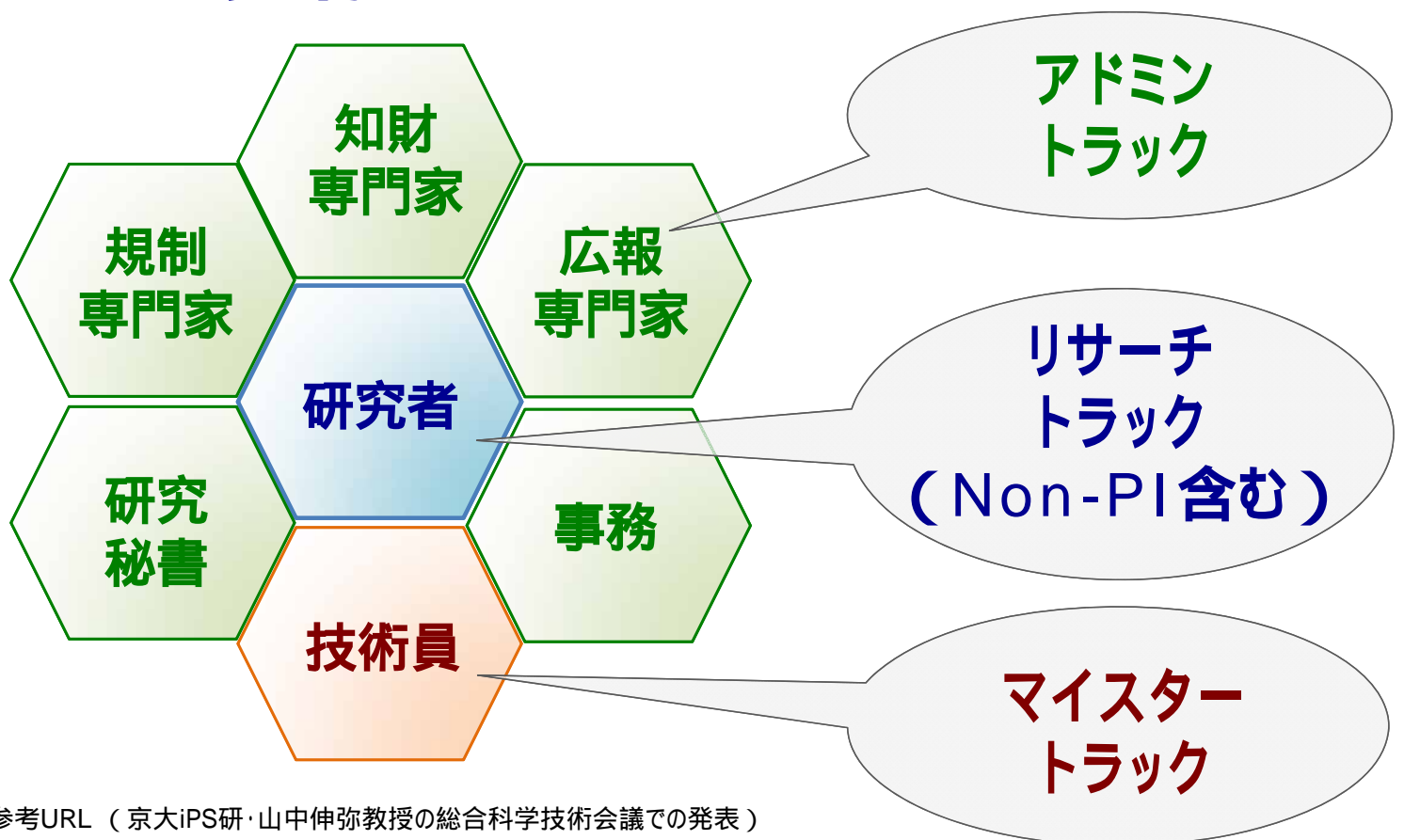


# 多様なテニュアのトラックを！



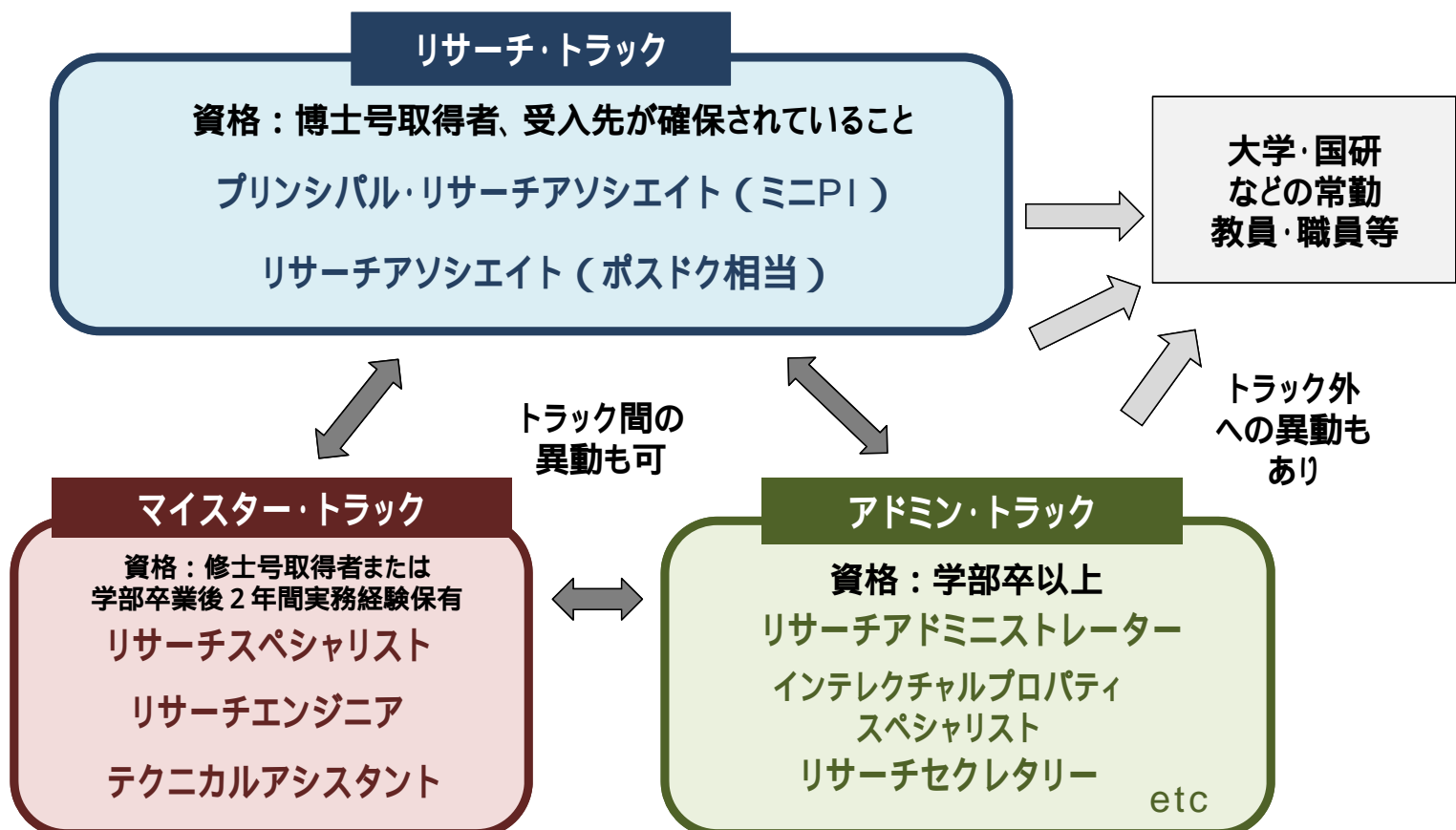
参考URL (京大IPS研・山中伸弥教授の総合科学技術会議での発表)

<http://www8.cao.go.jp/cstp/siryu/haihu105/siryu1-1.pdf>

<http://www8.cao.go.jp/cstp/siryu/haihu105/siryu1-2.pdf>

33

# トラック間の異動が可能！



参考URL (マサチューセッツ工科大学の職位・職階) <http://web.mit.edu/policies/5/5.2.html>

34

## まとめ

「ひとの評価」で

**競争**と**安定**のベストミックス！

そこから**共創**を！

3/24/2015

35

## Empowerment 「ひと」が活躍できる組織づくり



面白いプロジェクトに自然と  
人が集まり、集中して研究  
できる魅力的な大学づくり

斬新で自由な人材の登用

より長期的な研究支援

研究マネジメント人材の育成

企業・大学の行き来を自由に

3/24/2015

36

## Case study 1: MITメディア・ラボのモチベーション

成功の評価基準：  
**Uniqueness (独自性)**  
**Impact (インパクト)**  
**Magic (魔法)**

出展：<http://www.inktalks.com/people/joiito>

なんかおもしろそう

3/24/2015

37

## Case study 2 : Ars Electronicaの マネジメントとモチベーション



「様々な分野をつなげる日々の実践が、根源的で重要なイノベーションのバッテリーである」という考え方。

“Shared Creativity (共有された創造性)”という概念がベース

出典：<http://www.aec.at/futurelab/en/research/>

3/24/2015

38

## Case study 2 : Ars Electronicaのマネジメントとモチベーション



### “Transdisciplinary”な

プロジェクトに研究者、様々なアーティスト、学生が集まる

出典：<http://www.aec.at/futurelab/en/research/>

3/24/2015

39

## Case study 3: カブリ数物連携宇宙研究機構のメンターシップ

コラボレーションがおきやすい、わくわくする環境設計。

数学者、物理学者、天文学者が隣同士に混ざって座る配置。

「都市広場 = そこに研究者が集い、いつでも学問的な意見の交換ができる場所」

「全研究者が毎日15時に集まる（必須の）ティータイム」

「野外劇場」

出典：<http://www.ipmu.jp/ja/mission/support-ipmu>



3/24/2015

IMPU研究等は2012年社団法人日本建設業連合会の第53回 B C S 賞受賞  
<http://www.inmu.in/ja/node/1351>

40

## 達成したいこと

全ての垣根を取り払い、時間をかけて  
いろいろな課題を発掘し、取組む事のできる  
**未来志向の集団**の創設。

現代的な組織構造（ハブ構造）により、  
**個々人が「主役感」**を持ち個人、組織の活動に集  
中して取組むことのできる  
”Powerful”ではなく”Effective”  
かつ”Creative”な集団を目指す。

## 達成したいこと

**ボーダレスな未来志向の研究  
者集団の創設**

# 1 . 「おもしろい」ことに取組む

研究者コミュニティ内外に対して  
「おもしろい」と思ってもらえる研究を  
推奨し、評価する研究環境を作る。

そのために、研究者が研究の「おもしろさ」を  
もっと説明し、みんながわくわくする研究に  
支持を得られるようになる。

## 2 . 科学を文化に

サイエンスの世界の人だけでなく、アート、哲学、政治、  
経済界などから様々なバックグラウンドを持った人々  
に研究に入り込んでもらい、  
時間をかけてワイワイ研究できる  
環境をつくることで活性化。

科学を日本の文化にする。

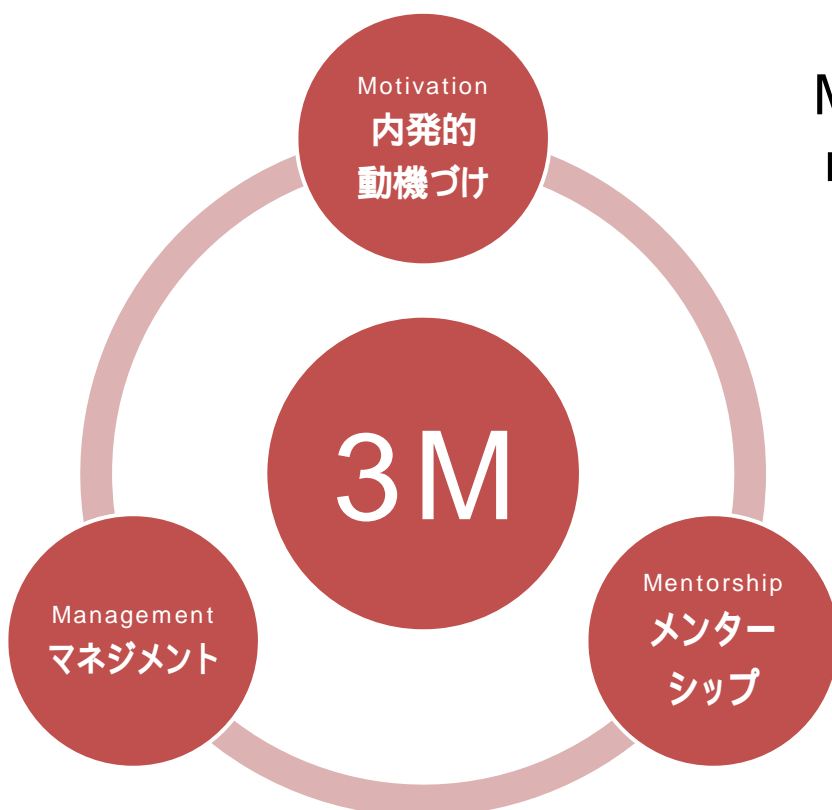
# 3 . 巻込む

イベント（パブリック：広告）  
表彰（研究者：コミットメント）  
展示（パブリック：継続性）  
ラボ（Visionaryな研究）

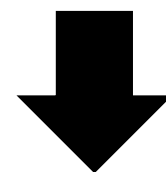
3/24/2015

45

3M（動機付け・マネージ・メンター）を同時に形成する



Motivation / Management / Mentorshipが三位一体になった  
研究組織づくりを推し進め、  
若手の個性と能力を  
最大限活かす



科学を文化に

3/24/2015

46

# 科学を文化に

3/24/2015

47

## 共通する提案

**「ひと」が活躍できるための基盤となるデータ整備を**

- 研究者の業績・活動の可視化・共有可能に
- 研究費の申請・審査・評価・成果追跡を容易に
- 国の政策や各大学・機関の取組のアーカイブ化と共有
- 各種自発的な取組の検証、評価を可能に



**日本の科学研究に関わる個人や組織、機関の  
自発的な取組を促すことで活性化！**

3/24/2015

48